



大明小学校

校長室から

令和2年10月5日

No. 11

文責 校長 穴山 直樹

読書のすすめ



先日の運動会では、保護者の皆様方のご理解とご協力を賜り、無事に実施することができました。本当にありがとうございました。今後ともご支援よろしくお願いいたします。

子どもたちの読書活動は、好きな本を読むだけにとどまらず、情報を主体的に読み解き、考えの形成に生かしていく読書（インタラクティブ・リーディングと呼ぶそうです）の必要性が指摘されています。小学校低学年における語彙の量と質の違いが学力差に大きく影響しているとの指摘もあり、言語能力を育てていくことは小学校においてとても大切なことです。また、幼児期から学童期にかけての読書能力形成が、その後の社会的・職業的な自立に向けた学びに影響するという意見もあり、子どもの読書活動を推進するためには、学校教育だけでなく社会全体で考えていかなければなりません。

近年、情報通信技術（ICT）を利用する時間が増加傾向にあり、情報にふれることは容易になる一方で、情報の意味を深く追及したり、文章の構造や内容を的確に捉えて読解したりする機会が少なくなってきていて、とくに学年が上がるにつれてその傾向が顕著になるといわれています。

読書の習慣を身につけるにはご家庭での取り組みが不可欠です。秋の夜長をテレビやスマホ、パソコンやゲームを時にはお休みして、「ほっとできる時間帯」の夕食後や寝る前等の10分～15分間くらい「読書会」ができれば楽しいですね。また、子どもたちの年齢や実態に応じて本を選び、お互いに（大人から子どもへ、子どもから大人へ等）「読み聞かせ」（音読）も本に親しむために効果的な手だてです。楽しみながら読書の習慣が身につけばとてもうれしいですね。今後学校でも朝読の取り組み、読書週間の取り組みに入る予定です。



経験は宝です



家庭での体験や経験は、お手伝いから始まることが多くあります。子どもにどこまで仕事を受けもたせることにはそれぞれお考えがあると思いますが、調理を手伝わせたことにより、食べ物の好き嫌いがなくなったとか、親子で一緒の家事をする中で、親子のコミュニケーションが深まったとか、よい効果があげられています。お手伝いによる効果としては、

- できることが増えていくことで、自信につながる。
- 自信をもつことで、自立につながる。
- 自分に任せられた仕事があることで、責任感が身につく。
- 働くことで感謝の心が育つ。等があると思います。



子ども一人での役割（仕事）が心配ならば、大人と一緒に仕事させて、①説明し、②やって見せて③させてみて④よくできたとほめてやって⑤いっしょに喜んであげてください。経験や体験に勝るものはありません。

楽しく明るく働くことは将来的に社会的自立や職業的自立のきっかけや動機づけになると思います。そして何よりもよい思い出になります。